



1 みんなともだち

ナレ ここは動物の学校。
ある日、ポンタ君のとこに
イヌオ君とネコミちゃんがやってきました。
イヌオ 「おい、ポンタ。お前どんぐり森に住んでるんだってな。」



2
ポンタ 「そうだよ。どうして？」
イヌオ 「誰かが言ってたんだ！
どんぐり森に住んでるヤツとは遊んじゃいけないって！」
ネコミ 「そうよそうよ！私も聞いたことあるわ！」
イヌオ 「おいコン太、おまえもポンタなんかと遊ぶなよ！」
ナレ ポンタ君は泣き出してしまいました。



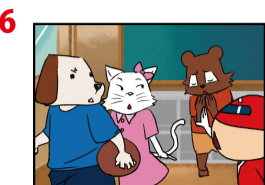
3
ナレ 隣にいたコンタ君はポンタ君が
かわいそうだと思いましたが
何も言えませんでした。
コンタ 「イヌオ君とネコミちゃんに
仲間はづれにされたらイヤだもん…」
ナレ そう思ってコンタ君はポンタ君と遊ばなくなりました。



4
ナレ 帰り道。ポンタ君は一人ぼっちで寂しく歩いていました。
ジンケンダ - 「ジン！ケン！ダー！」
ナレ そこへジンケンダーがやってきました。



5
ジンケンダ - 「ポンタ君、どうしたの？」
ナレ ポンタ君は学校でイヌオ君とネコミちゃんに
言われた事を話しました。
ジンケンダ - 「僕に任せろのだ！」



6
ナレ 次の日、学校にジンケンダーがやって来ました。
イヌオ 「あっ！ジンケンダーだ！」
ジンケンダ - 「イヌオ君、ネコミちゃん、住んでる場所で
仲間はづれにしちゃいけないのだ！」



7
ネコミ 「なによ！ひょっとしてあなたもどんぐり森に
住んでるんじゃないの？」
イヌオ 「そうだよ！あっち行けよ！」
ジンケンダ - 「あうう〜…」



8
ナレ 騒ぎを聞きつけて
学級委員長のウサコちゃんが来て言いました。
ウサコ 「イヌオ君、ネコミちゃん、
どうしてポンタ君にそんなこと言ったの？」
イヌオ 「だって誰かに聞いたんだ。どんぐり森に住んでるヤツは
みんな嫌なヤツだって！」
ウサコ 「じゃあ、イヌオ君とネコミちゃんはポンタ君のことを
嫌な子だって思ってるの？」



9
ナレ イヌオ君とネコミちゃんは良く考えて思い出しました。
イヌオ 「運動会で転んだとき、一番大きな声で応援してくれたのは
ポンタだったな…」
ネコミ 「雨の日…傘を忘れて困ってる時にポンタ君、傘を貸してくれたっ



10
イヌオ 「ごめんな、ポンタ、おれたちが悪かったよ。」
ナレ イヌオ君はあやまりました。
ネコミ 「ジンケンダーもごめんなさい。どんぐり森に住んでる子と
遊んじゃいけないなんて間違ってるよね…」



11
ナレ すると横からコンタ君も恥ずかしそうに言いました。
コンタ 「ポンタ君、僕もごめんね…きみがいじめられてたとき、
僕、仲間はづれにされるのが怖くて何も言えなかったんだ…」
ポンタ 「みんな、わかってくれてありがとう…
僕たちずっとずっつともだちだよ！」

ナレ そしてみんなで輪になって仲直りの握手をしました。
おしまい